

岐阜県立斐太高等学校

学 校 長 滝村 昌也

学校住所 高山市三福寺町736番地

電話 0577-32-0075

1 会議の名称 岐阜県立斐太高等学校 学校評議員会（第1回）

2 会議の構成

委 員

熊崎 元康 飛洲林業株式会社代表取締役社長
高木 和代 有斐会理事
野添 雅義 高山自動車短期大学前学長
藤江 久子 株式会社ケア高山代表取締役
溝際清太郎 株式会社駿河屋魚一代表取締役社長

（委員名は五十音順、敬称略）

学 校 側

滝村 昌也 校長
北原 和弘 事務部長
中村 浩一 教頭
足立 宏 教務部長
平野 昌之 進路指導部長
中田 広孝 生徒指導部長
清水 潤 特別活動部長
日比野恭一 探究活動推進部長

3 会議の目的

学校運営について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。そのため岐阜県立斐太高等学校に学校評議員会を置く。

4 会議の開催

令和2年6月10日（水）～6月26日（金）
書面内容に対する意見等を電話で聞き取る形式で開催

5 会議の概要

- 【1】学校作成資料の送付（6月10日）
- 【2】資料についての感想・意見拝聴（6月15日～6月19日）
 - ・本年度学校経営方針
 - ・本年度各分掌における具体的な取り組み
 - ①教務部 ②進路指導部 ③生徒指導部
 - ・本年度の特徴的な取り組み
 - ①コロナウイルス予防対策 ②進路指導計画 ③探究学習活動
 - ・前回の学校評議員会以降の本校の活動
- 【3】各委員意見の確認・情報共有（6月23日～6月30日）

（1）本年学校経営方針・各分掌における具体的な取り組みについて

意見 1 コロナウイルス対策の影響で授業進度を確保することが甚だ困難であると思う。まずは授業時間の確保に努めていただきたい。また、習熟度授業について、各生徒が納得できるよう配慮をお願いしたい。

学校より 授業時間確保のため、平日8時間授業を実施する。習熟度授業は生徒の学力に応じた学習活動として有効であるが、生徒の希望や入れ替えの事前説明を十分に行いながら実施している。

- 意見 2 単位制を実施して2年になるが、授業や生徒の様子に変化はあるか。
- 学校より これまでの文理選択や習熟度別授業に加え、生徒の進路希望に近い授業選択をできるようにしている。各科目の学びを深めながら、一人一人の進路実現につなげていきたい。
- 意見 3 登下校の送迎や自転車通学の安全対策は重要である。家庭での情報機器の利用を控える「ワンダフルナイト」も大切であるが、生徒の自主性を尊重することも大切にしてほしい。
- 意見 4 生徒指導部の重点課題「情報リテラシーの醸成」を含む規範意識や公共心の育成に賛成する。情報収集・コミュニケーション手段として情報機器は現代の必須ツールであるが、ネットワーク世界の危険性に対しても十分な配慮が必要であり、早い時期に耐性を身につけておく必要がある。
- 学校より 登下校時の安全確保は警察と協力しながら実施している。時間帯によっては注意が必要な場合もあり、生徒指導部を中心にして当番制で通学路の交通マナーを見守っている。今年度から校舎敷地法面の工事が始まり、校内の交通マナーにも注意している。また、スマートフォンなど情報機器の使い方の誤りはさまざまな問題行動につながっているので、情報リテラシーの指導は重要である。家庭の協力は不可欠であり、研修や情報発信を充実させたい。
- 意見 5 教員の働き方改革について、部活動指導の負担が大きいのではないかと。コロナ禍のこの機会が、部活動指導のあり方を検討するよい機会になればよいと思う。
- 学校より 働き方改革の方策として、勤務時間の管理や会議の見直しを実施している。部活動の指導については、複数顧問制による負担の軽減を図り、「斐太高校部活動方針」を遵守している。現在は、休校後の段階的な部活動再開の時期であり、県の「学校再開ガイドライン」に沿った活動を行っている。部活動数の減少も検討中である。

(2) コロナウイルス感染拡大防止への対応について

- 意見 1 休校時のオンライン学習支援では通信の不具合もあったという話も聞いているが、順調に行うことができたのか、また、今後はどのような実施計画を立てているか。
- 学校より 開始当初は通信状況が不安定で、教員も生徒も不慣れであったことにより、トラブルがあったが、その後は回線も増え、学年ごとの支援を順調に実施することができた。現在は模擬試験の問題解説等で利用している。今後は補習授業での利用を進めていきたいと考えている。
- 意見 2 先生方は大変だと思うが、メールや文書で細かく連絡をされており、生徒・保護者は安心されていると思う。学校行事の中止や変更はやむを得ないと思うが、実施する場合、検討過程の中で、是非生徒の声を反映してほしい。
- 学校より 学校の活力につながる諸行事を実施したいのは山々であるが、蜻蛉祭（文化祭）は密を避けられず、他校の状況も参考にして中止と判断した。体育祭については、どのような方法であれば実施可能か、生徒と検討しているところである。生徒からの意見についてはその都度、検討・対応していきたい。
- 意見 3 コロナウイルス感染症の世界的流行という未知の状況下において、「自分で考え、自分で判断し、自分の責任で行動すること」が大切である。冷静な情勢把握とそれに備える強さと知性を身につけなければならない。そのために学問を身につけることが必要であり、学問を学び続ける姿勢が求められる。

(3) 本校の特徴的な取り組みについて。本校に望むこと

- 意見 1 進路指導について、斐太高校生は自学自習の気風の伝統を受け継いでおり、希望進路を開拓して行ってほしいが、地域格差も懸念される。受験制度の変更とコロナウイルスの影響を受けた3年生徒は大変である。進学情報を的確に入手し、情報分析・状況判断する能力を育成しなければならない。
- 意見 2 コロナウイルスの感染拡大の不安から進路志望を変更するような生徒は出ていないか。あるいは、経済的不安から進路志望を変更するような生徒は出ていないか。
- 学校より 現段階で、コロナウイルスに関して進路を変更しなければならなくなったというような生徒はいない。奨学金制度については、先日、保護者へ日本学生支援機構奨学金の申請手続きについて、オンラインシステムを利用して説明した。また、保護者への進学説明会をオンライン配信で実施できるよう準備を進めている。例年多くの保護者に参加していただいている9月実施予定のPTフォーラムでも詳しい情報を提供できればと考えている。入試日程がどうなるか、現在は不透明だが、まずは日々の授業を着実に積み重ね、確かな学力を身につけさせたい。
- 意見 3 今年度から始まったFRH(地域共創フラッグシップハイスクール)は、SGH同様、非常によい学習プログラムである。先生方の負担もあると思うが、よい活動を継続してほしい。
- 意見 4 FRHの学習活動がどのような発表につながるのか、楽しみにしている。コロナウイルス感染予防による休校の影響で、スケジュールがどうなるか心配である。
- 学校より FRH事業では、地域社会の課題を学術的見地からみつめ、コミュニケーション能力・問題解決能力を身につける学習活動を計画している。そのうち、「地域活性化プログラム」では、「新型コロナウイルスが地域に与えた課題とその解決」をテーマに、観光・教育・福祉・防災・医療などの視点から課題探究学習を進める予定である。当初の予定をスライド実施しながら1月の発表会に間に合わせていきたい。

6 会議のまとめ

今回は、コロナウイルス感染予防のため、本校の本年度教育活動方針やコロナウイルス感染予防対策などの資料を書面と電話説明にて確認していただき、感想及び提言をいただく形で実施した。

委員の皆様全員から、コロナウイルス感染予防対策を日々重ねている職員・生徒に対する感謝とねぎらいの言葉をいただいた。委員の一人からは、メールにて「まったく先の見えない霧の中で、大いなる熱意をもって、創意工夫を重ねられ、生徒・保護者をここまで導いてくださった教職員の方々に感謝申し上げるとともに、斐太高等学校の生徒さんたちに対して、『よくここまで耐えられた』と敬意の念を改めて強く感じていることをお伝えいたします」との言葉をいただいた。

4月以降、学校評議員はじめ地域関係者からの励ましの言葉に触れ、改めて本校への期待を確認するとともに、今後も安全・安心な環境づくりと、その中で本校教育方針に則った生徒の育成に努めたい。